

ポリカ折板

折板屋根専用採光材

■特長

- ①ポリカーボネート素材を使用した折板屋根採光材です。
- ②折板形状に合わせて品種、厚さ、カラーが豊富に選べます。
- ③表面に耐候処理を施しています。
- ④防火地域、準防火地域または法22条区域における屋根用途（不燃性の物品を保管する倉庫等）に使用できます。

国土交通大臣認定品 認定番号 DW-9054



Y600

B(ブラウンスモーク)

光線透過率 約28%

C(クリアスモーク)

光線透過率 約70%

M(クリアスモークマット)

光線透過率 約70%

断面サイズ (mm)	厚さ (mm)
3山	1.5
	2.0
	1.5
	2.0

材質：表面耐候処理ポリカーボネート製
●運賃別途

■一般グレード

カク20

W(乳半)

光線透過率 約50%

C(透明)

光線透過率 約90%

B(ブラウンスモーク)

光線透過率 約32%

M(クリアマット)

光線透過率 約90%

断面サイズ (mm)	厚さ (mm)
500	1.5
200	2.0

※ 表面耐候処理ポリカーボネート樹脂
注：母屋間隔は荷重条件により異なりますが、2m以下にしてください。また、折板の吹上荷重に対する変形防止に、吹上防止材(Kハセフキアケ)を2m毎に必ずご使用ください。

ポリカ折板 特注対応 参考図

重ね式折板

ハゼ式

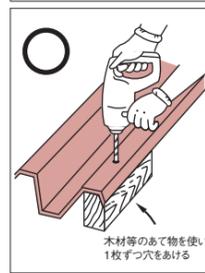
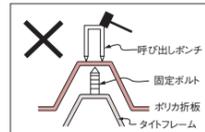
スレート屋根改修折板

サイディング

※色は乳半、透明、ブラウンスモーク、クリアマットで対応可能です。
※厚みは1.5mm・2.0mmで、長さは10mまで対応可能です。

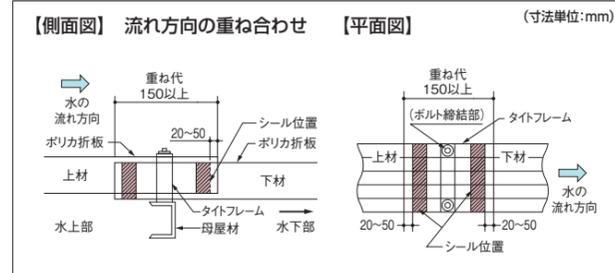
ポリカ折板の施工方法

- 1.まず、タイトフレームの上に載せる前に裏の保護フィルムを剥がしてください。
- 2.タイトフレームの上に仮置き、取り付け部にボルト径+2~4mmのルーズホールをあけてください。
 - よく研磨されたキリを使用して、電動ドリルで穴をあけます。作業中に、バリや融着等が発生しないようにしてください。
 - 穴径が小さいと熱伸縮によるクラックが入る恐れがあります。
 - ケン付ボルトへの取り付け時でも呼び出しポンチで開孔せず、電動ドリルを使用してください。
- 3.重ね合わせ部の保護フィルムを取り除きます。
- 4.重ね合わせ(重ね代)は、流れ方向150mm以上重ねてください。
- 5.重ね合わせ部の雨仕舞は、ポリカーボネート用シリコンシーラントを使用してください。



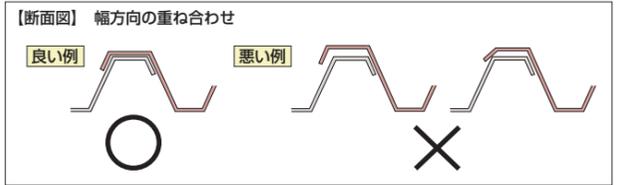
モメンティブパフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社 トスシール380
東レ・ダウコーニング(株) トーレシリコンSE960
信越化学工業(株) シーラント72
セメダイン(株) シリコンシーラント8051N

- 上記の中から選んでご使用ください。
- ※プライマーや、酢酸系シリコン等、他のシーリング材を使用されますとポリカ折板の表面が侵されたり、クラックが発生することがあります。
- シーリング材は、必ずボルト締結部両側に施してレベル差異が生じないようにしてください。(段差があると、ボルトを締付けした際に、レベルの高い側に応力が集中し、シーリング材の影響でクラックが発生する恐れがあります。)

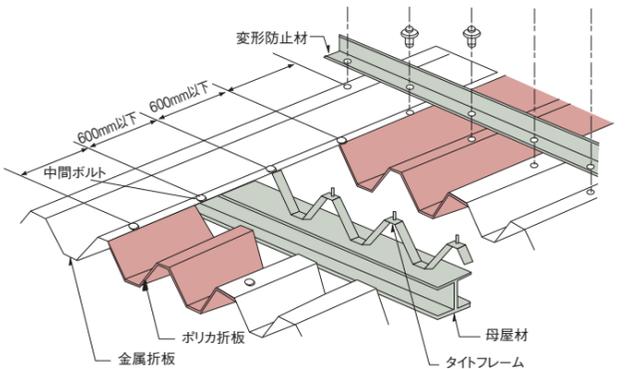


シーリング材をボルト締結部付近に付着させないよう注意してください。(ボルト締めにより、ポリカ折板に内部応力が発生しますので、クラックが発生する恐れがあります。)

●幅方向の重ねは、下地折板と中心を合わせて取り付けてください。中心がずれたままボルトを締めると、ポリカ折板が変形したり、クラックが発生することがありますので注意してください。



- 6.変形防止用金具取り付け
母屋間隔が長い場合や、風、雪、荷重等が大きい場合は、適当な間隔で変形防止材を取り付けてください。

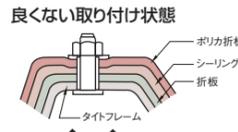
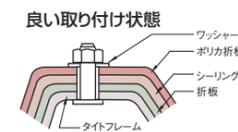


- 7.中間ボルトの間隔
中間ボルトの止め付け間隔は、600mm以下にしてください。
- 8.ポリカ折板をボルト止めします。
ボルト止めする際には、パッキンやワッシャーを使用して取り付けます。下記の注意事項を守ってください。
- 9.ボルト止め等の施工が完了すれば、表面の保護フィルムを剥がしてください。

注意事項

■ボルト締結の注意

- ポリカ折板をボルト締めする際には、次の点に注意してください。
- 折板が伸縮できるようにワッシャーの下にパッキンを介してボルト締めしてください。
- パッキンは、ポリカーボネートに対して腐食性のない材質を選択してください。(EPT、EPDM:エチレンプロピレンゴム、CR:クロロブレン等)
- ボルトを必要以上に締めすぎると、ポリカ折板が歪んでクラックが発生する場合がありますので、注意してください。
- ポリカ折板締結用ボルトのワッシャーは、25mm以上の平座金を使用してください。



変形
(ボルトを必要以上に締めすぎた場合)

■その他 使用・施工上の注意事項

- ポリカ折板の使用に当たり、4枚重ねの施工はできるだけ避けてください。重ね合わせ部の雨仕舞が悪く、雨もりの恐れがあります。
- ポリカ折板は塗料、溶剤アクリル成分により表面が侵されることがあります。設置箇所の塗料が十分乾いているか確認してから、取り付けをおこなってください。
- 保護フィルムを貼ったまま長期間屋外で放置しますと、保護フィルムが剥がれなくなる可能性があります。施工後は、すぐにマスキングを剥がしてください。